

ロジスティクス環境会議
第7回広報・普及専門委員会 議事録

I. 日 時：2005年7月27日（火） 15：50～17：10

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：9名

IV. 議 案：

- 1) ニュースとジャーナルについて
- 2) 第2回フォーラムについて

V. 開 会

小西委員長により、開会が宣された。

VI. 議 事

小西副委員長の司会進行のもと、以下のとおり議事が進められた。

1) ニュースとジャーナルについて

事務局より、資料1に基づき、ニュースとジャーナルの基本的な枠組みについての説明が行われた後、以下のような意見交換が行われた。

【主な意見】

(全体を通して)

委 員：国際動向の記載がなくとも、CGLの進捗と行政動向について情報提供できれば問題ないのではないか。

委 員：ニュースと同じ情報をジャーナルに掲載しても構わないのではないか。情報が重複することよりも、情報が漏れる方が問題だと考える。

委 員：読者は全く知らないという前提で、内容を検討した方がいい。

委 員：事務局案どおり3号発行してほしい。

委 員：ジャーナルについては、環境会議メンバーだけにとどまらず、広く配付してはどうか。

委 員：環境会議メンバーは費用を払っていることから、メンバー以外については、無料ではなく、賛助会員のような形でニュースとジャーナルを配信してはどうか。

(次号の企画について)

委 員：ロジスティクス環境会議とグリーン物流パートナーシップ会議の役割の違い等について掲載してはどうか。

委 員：トラック輸送に関する二酸化炭素排出量算定の検証結果等を掲載し、「『燃料法』の精度が優れているのでこの方法を使おう」と思わせるような内容を掲載してはどうか。

委 員：改正省エネ法を受けて、企業として実際に何をしなければならないのかを具体的に掲載する必要があるのではないか。

委 員：京都議定書や改正省エネ法を受けて、二酸化炭素の話題が注目を集めているが、例えばトラックについて言えば、NOXやPMなどの規制の問題もある。二酸化炭素だけにとらわれず、幅広く情報提供すべきである。

事務局：CGLでは、ロジスティクス分野における環境負荷低減を目的としているため、二酸

化炭素や包装材以外について、例えばコラムで紹介することも一つの案だと考える。

委員：リバーズロジスティクス調査委員会で、8月に環境省との情報交換を行うので、その内容を掲載してはどうか。

【決定事項】

次号の編集企画案を事務局で作成し、次回委員会前に事前にメールで配付し、ご検討いただく。

2) 第2回フォーラムについて

事務局より、説明が行われた後、以下のような意見交換が行われた。

【主な意見】

委員：昨年は経団連会館で行ったが、参加申込者数を考えると、会場を変更する必要があるのではないかと。

事務局：会場を変更する方向で検討している。

委員：グリーン物流パートナーシップ会議と共催で行う場合は、プログラム等が対等になるようにしてほしい。

委員：昨年度実施した際も8月から検討を始めたが、準備時間が足りなかったため、今年度については、できるだけ早く検討をしたほうがよい。

委員：グリーン物流パートナーシップ会議と共催で開催しなければいけないのか。

事務局：必ずしもその必要はない。ロジスティクス環境会議として、開催時期を判断すればよい。

委員：環境会議としてまとまった成果等を発表するのであれば、本会議が行われる3月以降の方がよいし、事例の紹介ということであれば、12月や1月でもよいと思う。したがって、フォーラムを開催するねらいをきちんと明確にした上で、時期等を設定すべきである。

委員：集客を考えれば、グリーン物流パートナーシップ会議と共催した方がよい。

【決定事項】

事務局でフォーラム等の目的を明確にした上で、案を作成し、次回委員会で議論する。

3) その他

【決定事項】

次回委員会を9月5日（月）15時～17時にJ I L S会議室で開催することとした。

VI. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以 上